

平成二十五年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一五〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

(西倉実季『顔にあざのある女性たち―「問題経験の語り」の社会学』生活書院、二〇〇九年、一四・一六ページ、三五九・三六一ページ、抜粋・一部改変)

問一 右の文は何を論じたものなのか、その論旨を六〇〇字以内でまとめなさい。

問二 「過度の関心でも過度の無関心でもない」「好意ある無関心」というあざのある人たちへの接し方の提案について、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

平成二十五年入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科・琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄、および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、これまであまり注目されてこなかった顔にあざのある人達の抱える問題を、当事者へのインタビューを軸にしつつ社会との関係から論じたものである。本出題の意図は固定観念に縛られず、顔のあざと社会との関係について考えようとする文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。加えて、当事者から提案されている顔にあざのある人への接し方についての受験生の考えを論述させることで、あざと社会との関係について論じた文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。